

※ ホームページ等で公表します。(様式 1)

立教 S F R - 院 生 - 報 告

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2014年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 異文化コミュニケーション 研究科			言語科学	専攻
研究代表者 (2015年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏 名		
	異文化コミュニケーション研究科 言語科学専攻 2年次		西内 沙恵 印		
指導教員	所属・職名		氏 名		
	異文化コミュニケーション学部 ・研究科 教授		池田 伸子 印		
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ 社会		個人・共同の別	個人 ・ 共同 名	
研究課題	スペイン語を母語とする日本語学習者の多義語理解に関する基礎的調査 ー教材開発に向けてー				
研究組織 (2015年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏 名		
研究期間	2014 年度				
研究経費	(支出金額) 196,329 円 / (採択金額) 200,000 円				

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

言語を用いて複雑な内容を正確に伝えるためには、膨大な語彙が必要であるが、外国語学習者にとっては母語話者と同じ語彙を習得することは難しい。限られた語彙で経済的、効率的にコミュニケーションを行うための1つの方策として語彙の多義的使用があるが、それは長い時間をかけて基本的な意味から比喩的な拡張のプロセスを経て一般化されたものであり、語が多義を有するに至る拡張の仕方が言語によって異なり普遍的なものではない。すなわち、多義的構造の中には中心的な意味からの類推が容易な拡張義のみならず、元の意味からは類推が困難な拡張義が共存する。そして、言語の経済性に則って基本的な語彙ほど多義である。学習者視点の日本語多義的形容詞への認識を学習者の母語と比較して調査することを目的に、本研究ではスペイン語を母語とする日本語学習者を対象に、多義的形容詞の意味を問う調査を実施した。加えて、学習者の持つ語義への認識を明らかにすることで、多義語学習に活かすことを視野に取り組むものである。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[多 義 語] [意 味 拡 張] [転 移]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、学習者のある多義語への認識について考察することと、効率的な多義語導入の方法を提案することを目的に、スペイン語を母語同然に操る日本語学習者のある多義的日本語形容詞への意味解釈を探る調査で得られた結果を分析した。被調査者をスペイン語話者に限定した目的は、語義に対する学習者の認識への母語の影響を考慮することにある。

調査対象の語として、国立国語研究所編(1982, 2010)、スリーエーネットワーク(1998)、久島(2001)から、基本語彙である「高い」「近い」「遠い」「低い」「広い」の5つの多義的形容詞を選考した。これらの意味について日本語独特の意味用法及び正確な解釈が難しいと想像される表現を的確に解釈しているかどうかを西訳問題によって、選出した日本語形容詞と中心義が対応するスペイン語形容詞に共通の意味用法及びスペイン語独特の意味用法を、スペイン語の形容詞の意味用法を対応する日本語形容詞でも同じように表現できると思うかどうか、その判断を求める容認度判断の設問によって、次の3点を明らかにしようと調査した。

- (1)スペイン語を第一言語同然に使用する日本語学習者の多義的形容詞への意味解釈が正確か。
- (2)日本語形容詞と中心義が対応するスペイン語形容詞の多義的特性が日本語形容詞への意味解釈に活かされているか。
- (3)日本語の多義的形容詞への意味解釈が正確ではなく日本語形容詞と類似する母語の特性が解釈に反映されていない場合、熟達度別に異なる傾向が観察可能か。

調査協力を依頼した被調査者は、バレセロナ自治大学の日本語専攻、2年次以上のスペイン語を母語同然に使用可能な61名である。この条件の下で調査を実施することは、同一の学習環境である教育機関で学ぶ被調査者が対象となり、本調査の結果分析で設定する熟達度の分類基準の妥当性のために望ましい。本調査への協力を承諾してくれた該当機関での調査の実施は、統制された学習環境で学んでいる初級から中級以上の熟達度の学習者が相当数在籍するという点で適切であり、スペイン語を母語とする日本語学習者の代表的なデータとして、普遍的な考察に向けたモデルケースの一つとなりうると考えられる。なお、広範囲で使われるスペイン語の地域的な差異の影響は憂慮されるものの、調査対象の日本語形容詞と中心義が対応するスペイン語形容詞においてはスペインとイスパノアメリカの地域的な差異は確認されなかった。

調査の結果、1つ目のリサーチエスチョンの結論として、スペイン語を母語とする日本語学習者の日本語の多義的形容詞への意味解釈には不正確な点が観察されたことがあげられる。日本語に独特の表現や解釈が難しいと思われる表現を問った西訳問題の中で、日本語文の意味が分かったのににもかかわらず、その予想が外れ、正確な意味を記述できなかった者が多かったことが明らかとなった。

2つ目のリサーチエスチョンの結論として、日本語形容詞と中心義が対応するスペイン語形容詞の多義的特性が日本語形容詞への意味解釈に活かされていない場合が容認度判断の設問から観察された。

意味解釈が正確ではなく日本語形容詞と類似する母語の特性が解釈に反映されていない場合に熟達度別の傾向が観察できるかという3つ目のリサーチエスチョンについては、2つ目のリサーチエスチョンで否定的判断の比率の有意が確認できた表現で熟達度に伴って正確な判断がなされており、熟達度別に特別な判断の傾向は観察されなかった。熟達度別の解釈に有意に異なる傾向があることは分析結果から確認されなかったものの、初級で母語に存在する意味特性を日本語表現への解釈に正確に活かしていた一方で、中級では母語の意味特性を中心義が対応する日本語表現に反映していない場合があった。すなわち、初級では正しい判断がなされる可能性があるにもかかわらず、中級で否定的判断がなされがちになり、むしろ正確な判断から遠ざかってしまう可能性が示唆された場合が観察された。

言語間の類似点が存在する場合に認められる正の転移に着目した先行研究では、意味の転用への容認度が必ずしも実際の意味の対応や習得順序と一致しないことが明らかにされており、学習者が必ずしも実際の意味の共通項に追従し語義を習得するわけではないことが示唆されている。本研究で実施した調査からは有意な結果が得られなかったものの、有意差が検出されなかった要因としてサンプル数の不足が考えられた。

参考文献

- 久島茂. (2001) 『《物》と《場所》の対立：知覚語彙の意味体系』くろしお出版
 国立国語研究所. (1982) 『日本語教育基本語彙七種比較対照表』大蔵省印刷局
 国立国語研究所. (2001) 『教育基本語彙の基本的研究：教育基本語彙データベースの作成』明治書院
 スリーエーネットワーク. (1998) 『みんなの日本語初級I本冊』スリーエーネットワーク

研究成果の概要 つづき

本調査では得られた多義語への解釈のデータを教材開発に活かすことを視野に入れて、研究を進めた。すなわち、熟達度に応じて異なる学ばれにくい意味や、学習すべき意味に焦点を当てた練習問題制作への活用も研究を進める上での目標の1つであった。その必要性は、山下・岡田(2012)は、様々な語彙学習教材が開発される中、多義語を主題として扱う教材に語彙獲得を促進する効果の可能性があるにもかかわらず、数が少ないことを報告していることから明らかである。なお、多義を有する語について、基本義から派生義へと語義を階層的に示した辞典は瀬戸(2007)や今井(2011)など、すでに存在しているが、申請者は、学習者の母語の観点を以上の偉大な著作に取り入れることにより、認知言語学の応用の可能性を広げようとするものである。

外国語学習において既習の多義語の未習の意味に遭遇したとき、未習の意味であることに気づくこと、及び未習の意味を推測することが正確な解釈のために求められる。これらの能力を語感と捉え、現実には語感がいいと言われる学習者の存在がある一方で、そうではない学習者も存在する。語感の優れた学習者とそうでない学習者の語彙習得の達成度の溝を埋めるためには語感の良い学習者以上の言語接触の機会を獲得する必要があると言われるが、語感の優れた学習者以上の学習時間を永遠にかけ続けなければならないわけではないだろう。その根拠は方略が熟達し得るものであると考え、教育的介入が可能であることにある。効率的な語彙学習への方略の獲得につながる、語彙学習の成長を促すサポートの役割が、語彙学習教材に望まれる。

本研究で実施した、スペイン語話者を対象とした日本語の多義的形容詞への意味解釈に不正確な点が観察され、かつ対象の日本語形容詞と中心義が対応するスペイン語形容詞の多義的特性が日本語形容詞の意味解釈に活かされていない場合があった調査結果から、多義的形容詞への学習の可能性と必要性があるものと考えられる。学習者は、母語と目標言語の間によく似た特徴が実際にあるからといって、必ずしも転用するわけではないといえ、実践への応用を試みたい。

対象の多義的形容詞を学習項目に設定した独習教材を作成し、その使用感を2名の被調査者にアンケートで問うた結果、次のような反応が得られた。以下の西文に続く括弧内は、申請者による回答の拙訳である。

試用した独習教材が使いやすかったかどうかを尋ねる質問に対して

“La explicación en forma de tabla comparativa es de fácil comprensión.”

((意味を)比較した表を用いた説明は理解が容易だ。)

という回答が得られたことから、スペイン語話者にとってスペイン語と比較した目標言語の意味の解説には肯定的な印象を持たれる可能性があると思われる。

独習教材がおもしろかったかどうかを尋ねる質問に対して

“Descubrí que en muchas ocasiones he utilizado mal esos adjetivos en japonés.”

(色々なときに(該当の)日本語形容詞を間違えて用いていたことが分かった。)

という記述があったことは教材の試用が誤用に気づくきっかけとなったことを示唆している。

その他、

“Fue una buena forma de poner a prueba mis conocimientos de japonés y también de aprender un poco más sobre algunos aspectos que parecen complicados del idioma.”

(自身の日本語の知識を試し、また言語の複雑に見えるいくつかの側面について少し学ぶのにちょうど良かった。)

というコメントから、教材の使用を通して多義語の困難面に気づく他、その多義語使用の経済性と効率性にも目が向けられる機会となったことから、教材が有効に活用される可能性が示唆される。

回答者は少人数であったものの、本調査で得られた教材へのコメントから、教材に対して比較的肯定的な印象を抱いた他、基本語彙である多義的形容詞を学ぶことの有用性を感じてくれたことが見て取れた。これらのことは、学習者の多義語に対する学習方略を発展させる上で教材の使用が有効である可能性を示唆していると考えられる。

参考文献

今井新悟. (2011) 『日本語多義語学習事典：形容詞・副詞編』アルク

瀬戸賢一. (2007) 『英語多義ネットワーク辞典』小学館

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文

西内沙恵. (2015 年刊行予定) 「スペイン語話者による日本語多義的形容詞への認識に関する一考察 - 教材開発の試みを通して -」『日本語教育実践研究』. 第 2 号. ページ数未定.

②図書

なし

③シンポジウム・公開講演会等の開催

なし

④その他

口頭発表

西内沙恵. (2014 年 9 月 2 日) 「多義語理解に関する基礎的研究 - スペイン語を母語とする日本語学習者を対象に -」Seminario de Lingüística Española de Japón (日本スペイン語学セミナー) (開催場所 : ヤマハリゾートつま恋)

西内沙恵. (2014 年 12 月 10 日) 「＜場所＞形容詞への解釈に関する調査報告 - スペイン語を母語とする日本語学習者を対象に -」東京スペイン語学研究会 (開催場所 : 東京外国語大学)

発表報告

西内沙恵. (2015 年刊行予定) *Una investigación sobre la interpretación de los adjetivos polisémicos dimensionales -Hacer a los aprendices hispanohablantes objeto de encuesta-*. Lingüística hispánica. 第 59 号. ページ数未定.

西内沙恵. (2015 年刊行予定) *Informe de una investigación sobre la interpretación de los adjetivos “dimensionales” por parte de hispanohablantes aprendices de japonés*. スペイン語学研究. 第 30 号. ページ数未定.